



ほけんだより

2022年6月発行
学校法人織田学園
おだ認定こども園

園内の感染症発生情報は、
連絡アプリでもお知らせしています。

●少しずつ暑さに慣れる『暑熱順化』体づくりの季節です！

梅雨が近づき、真夏に比べ気温や湿度の変化が大きい季節です。人間の体は気温の上昇を感じると、全身の皮膚の血流を急激に増やして汗をかき、体の熱を外に逃がして脳や内臓を守るよう調節します。子ども達の体は成長途中で、うまく調節して熱を逃がせない時は体内にこもり、熱中症になる危険もあります。日々の遊びの中で「暑熱順化」を促進し、真夏の暑さに負けない体の調節機能を育てましょう。

●5月感染症等：新型コロナウイルス感染症、アデノウイルス、胃腸炎、他発熱・咳・下痢の風邪等

ヘルメット・シートベルトの着用で、子どもの命を守りましょう！



園周辺の遊歩道で、自転車転倒事故の報告が4月1件、5月3件あります。原因は、木の根や苔、雨で濡れた落ち葉やタイル等で滑る、子どもが身を乗り出しバランスを崩す等です。医療機関を受診する場合も、お子さんがヘルメットとシートベルトを着用している場合は大事なく済んでいるようです。自転車に乗る際は、ヘルメットやシートベルトを習慣にしましょう。



自家用車の送迎時も、チャイルドシートを適切に使用する事が大切です。過去に、追突事故にあい、チャイルドシートの使用で無事に済んだ報告もあります。また短時間でも、子どもだけで車内に残す事は危険です。車を離れる時はもう一度車内を確認し、車内熱中症に十分注意しましょう。



参考：政府広報オンライン

『水いぼ』は肌のケアが大事！

- 『水いぼ』は、ウイルスによる皮膚感染症で、治るまで半年～1年以上かかる傾向があります。
- 肌のバリア機能低下で広がりやすく、ひっかく傷で増えるため、数が少ないうちに受診をして、スキンケアについて相談しましょう。
- 水いぼの治療方針は大きく2つ『ピンセットでとる』『肌を保湿しながら免疫がつくの待つ』があります。根気よく取る場合もありますが、最近では処置後の傷が化膿してとびひになる、免疫がつくまでは増える事もある、子どもの苦痛を伴う、などの理由から、小児科・皮膚科とも、免疫がつくの待つ方針の医師が多いようです。



- 登園について：水いぼの部分は、他のお子さんと接触してうつさないように保護するか、服で隠れるようにして登園して下さい。
- 水遊び・泥遊び・プール：部位や数により、注射後のシール状絆創膏やラッシュガード等を使用して、周囲と患部の肌の接触を防ぐよう配慮をお願いします。

- 対応方法やご心配なことは、担任や看護師にご相談下さい。参考：[日本小児皮膚科学会](#)



プール・水遊びの健康チェック



- *こまめに手・足の爪を切りましょう。子どもの爪は伸びるのが早く、思わぬけがの原因になります。
- *お子さんの髪や肌の状態をチェックしましょう。水いぼやアタマジラミは、早期発見が肝心です。初めての時は、かかりつけ小児科や皮膚科で相談しましょう。

●こんなときはあそべません●

- ・前日～当日、37.5℃以上の熱がある
- ・咳がひどい、のどに痛みがある
- ・下痢・腹痛の症状がある
- ・目が赤く充血している。目やにが多い
- ・とびひなど、皮膚に傷がある時は治るまで
- ・朝食を食べない、食欲がない時
- ・上記以外でも『いつもと違う』と感じる時

感染症♥予防接種ナビ®

この夏は「手足口病」「アデノウイルス」の流行に注意！